

原田種成著「漢文のすすめ」新潮社 1992年9月15日刊を読む

### 音読の具体的方法

1. 音読するには、原文に返り点だけがあり、書き下し文がわきに添えてある本を用い、書き下し文を<sup>しおり</sup> 栞などで押え、読み方のよくわからないところや読めない字があると、栞をあげて下を見る。つまり書き下し文が<sup>そば</sup> 側にいる先生の役をするのである。
2. そのようにして、一節を書き下し文を見ずに全部すらすらと読めるようになって、次の節に進む、というようにして読み進めた。
3. さらに翌日には、前日に読んだところがつかえずに読めるかどうか確かめてから翌日分の節に進んだ。これが私の漢文読解力の基礎になったと思っている。
4. とりわけ『孟子』の諳誦は大東文化学院に入学した後、漢作文を作るときに大いに役に立った。複雑な言い廻しの表現が口に上ったとき、『孟子』はどう書いているかを見て正しい書き方がわかった。

P38

- 2009年2月15日林明夫記 -